

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課水産しまね振興室長 三浦 順 電話番号 0852-22-5740

事務事業の名称	栽培漁業事業化総合推進事業	
目的	(1) 対象	マダイ・ヒラメを漁獲する漁業者
	(2) 意図	マダイ・ヒラメの資源を増加させることにより漁業生産を増大させる
事業概要	栽培漁業の地域への定着化を図るため、当該地域の市町村・漁協・漁業者等による推進組織を基に、漁業者自らによる中間育成・放流・漁場管理・調査等を実施し、栽培漁業の事業化への促進を図る。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	放流マダイの混獲率	目標値	8.4	8.4	8.4	8.4	%
	式・定義	漁獲における鼻孔連結魚混獲率/放流種苗における鼻孔連結率 (H18~H27の平均値54.2%)	実績値	15.3				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	11,895	10,868
うち一般財源 (千円)	11,895	10,868

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成23~27年度は毎年度の目標値(放流魚の混獲率:6.0%)を上回っており、平成28年度以降は、平成23~27年度の平均混獲率8.4%を目標値として設定し、データを注視していく。

## 6. 成果があったこと (改善されたこと)

- 放流されたマダイ・ヒラメは成長して親魚となり、これらが産卵することによって資源の再生産に寄与していると考えられる。また、漁業者が中間育成、放流に参加することによって資源管理の意識醸成に役立っている。
- 23、24年には、シュドモナス病により中間育成のヒラメの大量斃死がみられたが、25年以降は対策を講じることにより、発生を抑えている。

## 7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
  - 中間育成施設が老朽化している。
  - 中間育成時に魚病が発生することがある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
  - 中間育成施設は設置後、約20年が経過している。
  - 魚病が発生する原因を特定するのは困難である。
- ③原因を解消するための「課題」
  - 施設設置の方針を検討する。
  - 魚病発生の原因と考えられる問題について対策が必要。

## 8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 施設設置については、事業主体である(公社)島根県水産振興協会を中心に関係市町村、漁協で、必要となる費用等を助案の上、今後の方針を検討する。
- 魚病については、発生時に原因究明と対処方法について検討する。

## 9. 追加評価 (任意記載)